

市長選挙 中村欣一郎氏が再選



略歴

昭和33年生まれ(62歳)
平成11年から
鳥羽市議会議員(3期)
平成23年から
三重県議会議員(2期)
平成29年4月から
鳥羽市長(2期目)

投票率は63.72%

任期満了に伴い4月11日に行われた鳥羽市長選挙は、現職の中村欣一郎氏と新人の小久保純一氏が立候補しました。開票の結果、中村氏が5358票を得て再選し、二期目を迎えることとなりました。

また、翌日の4月12日には選挙結果を受けて当選証書付

市長選挙開票結果

当選	中村 欣一郎	5,358票
	小久保 純一	4,397票
開票総数		9,849票
有効票		9,755票
無効票		94票

与式が行われ、市選挙管理委員会の出口真人委員長から、中村氏に当選証書が付与されました。任期は4月21日から令和7年4月20日までです。

中村市長が二期目初登庁

4月21日、中村市長は市幹部職員の出迎えを受けて二期目の初登庁をし、続いて市役所西庁舎で就任のあいさつをしました。

中村市長はあいさつの中で「今年度から第6次鳥羽市総合計画に基づくまちづくりがスタートした。人口減少や高齢化から目を背けず、正面から取り組み、20年後に子どもたちが暮らしたいと思えるまちをつくりたい」と二期目の市



政について熱意を語りました。

また、職員に対し、総合計画に掲げる将来像「誰もがキラめく鳥羽 海の恵みがつなぐ鳥羽」をいつも念頭において業務にあたってもらいたいと述べ、「市民一人ひとりが役割をもつて輝けるよう、海の恵みや水産研究所といった鳥羽の強みを活かし、さまざまな人や団体がつながるまちを目指すとともに、新型コロナウイルス感染症によりイレギュラーな対応を迫られることが予想されるが、担当業務だけを考えるのではなく、市全体のことを考えてもらいたい」と広い視野を持ち、柔軟に対応する姿勢を強く求めました。



Vol.204
教育委員会生涯学習課
☎ 1268

『憲法記念日』

『公布から75年』

日本国憲法は、1946年11月3日に公布後、1947年5月3日に施行されました。今年には、公布から75年の年になります。

現憲法は、「国の政治の仕組み」と「人権の保障」の二つの部分から構成されていて、それぞれが「国の政治権力を制限すること」、「私たち国民の人権を保障すること」という役割を果たしています。

「憲法」というと、自分との関係が分かりにくいもので、「国民が守るべきもの」と捉えられがちですが、そうではありません。法律の多くは、国が国民に守ってもらうべきことを決めたものであるのに対して、憲法は、国民が国に守ってもらうべきことを決めたものです。憲法

は、人が尊厳をもって生きるために、国がやるべきではないこと、またやらなければならないことについて定めた最高法規なのです。そのため、憲法に反する法律や命令は効力を持ちません。

憲法で保障されている人権には、すべての人が平等な存在として平等な扱いを受ける権利(平等権)、個人として尊重され、人間らしく生きていくうえで、自由に物事を考え、行動する権利(自由権)などがあり、一人一人の人間の尊厳を守るためにあります。また、産業の発達や科学技術の発展、情報化の進展などに伴って、憲法に直接的には規定されていない権利が主張されるようになりました。これらは「新しい人権」と呼ばれ、環境権、自己決定権、知る権利、プライバシーの権利などがあります。

国内外でも、人権にかかわる事件や事案が次々と報道されています。この機会に、憲法の原文を読んでみる、あるいはわかりやすく書かれた子ども向けの憲法に関する本を読んでみるなどして、人権を身近なものとして考えてはどうでしょうか。